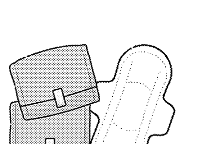
学校 公共施設のトイレに 生理用品の常備を



―新婦人オンライン交流会（2月2日）より

2月2日、「学校・公共施設のトイレに生理用品の常備を！ オンライン交流会」を開き、全国から280人が参加しました。学校訪問や子どもたちの声を聞くアンケート、教育委員会への要請や予算化にむけたアクションなど、たっぷり交流。「一喜一憂せず何度も要請を重ねることの大切さを感じた」「さっそくアンケートをやってみたい」など、感想が寄せられました。主な内容を紹介します。

中央ミニ報告

生理タブーを打ち破り ジェンダー平等の社会へ

中央常任委員　日野徹子

新婦人は各地で、学校や公共施設などのトイレに「トイレットペーパーのように生理用品の常備を」と、自治体、教育委員会、学校に繰り返し要請し、実現させています。

行政の消極的な姿勢に、「生理用品を持ち込んで置いてもらおう」「学校訪問して話し合おう」と工夫し、「保健室に取りに行き、倍で返却する」などの罰則的ルールをなくさせ、「保健室だけでなく、トイレにも」と、変化をつくり、子どもたちへのアンケートやシール投票、「生理と性教育」カフェなどにもとりくみました。

国も2021年から「女性活躍地方交付金」として、毎年9億円規模の予算措置をするようになっています。

独自に予算をつけている自治体もありますが、予算は足りていません。新婦人の2023年度予算要求の秋の行動署名（7面）でも、「学校トイレに生理用品を」と15万人分の署名を集め、国にさらなる予算化を迫っています。

長時間労働・残業あたりまえの日本社会で、生理、妊娠、出産、子育ては「個人責任」とされるなか、日本の女性労働者は戦前戦後ずっと声を上げ続け、職場から「産休」「生理休暇」などを実現させ、新婦人は、創立（1962年）当初から「生理休暇は母性保護のバロメーター」と生理休暇取得運動にとりくんできました。

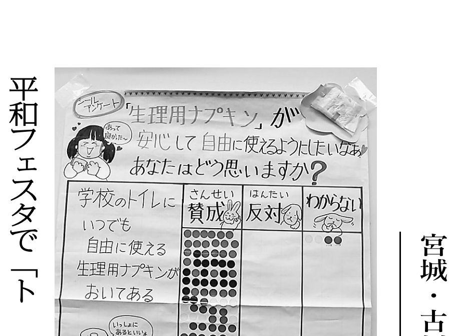
生理用品のトイレ配置は生理のタブーを打ち破り、ジェンダー平等の社会をつくるための私たちの大事な仕事です。

自信をもって、仲間を迎えてパワーアップしながら、すべての自治体での実現へ、力を合わせましょう。

発言より

学校との懇談で実現

宮城・古川支部　近江千賀子



平和フェスタで「トイレに生理用品の常備を」とシール投票コーナーをつくると、賛成が圧倒的（写真右）。この結果を持って大崎市へ要望し、交渉すると「保健室で渡せるようにしているから」との返答。そこで新婦人で生理用品を準備し、22校に1万920枚を届け、A中学校ではすぐにトイレに置いてくれました。（写真）

さらに平和フェスタや給食無償化シンポジウムの申し入れで各中学校を訪問し、懇談すると「原爆パネル展を校内でやってもいいですよ」と言ってくれた学校から後日電話があり、「生理用品をトイレに常備することにしました。いろいろ意見がありましたがまずは置いてみましょう」と！ また別の学校の養護教諭から「地域の方の声が後押しになり、トイレ設置がすすめやすかった」とのお話も。全学校に広がるよう予算措置を求めて要請を続けます。

小学校の洗面台に設置された（鹿児島支部）

中学校の個室に常備

愛知・豊田支部ガーベラ班　酒井千賀子

ガーベラ班は豊田市の隣、みよし市の班です。名古屋市の支部が「学校のトイレに生理用品を」と要望書を出したと知りました。私たちもやろうと昨年1月、3人の娘がいる方を誘って教育委員会に行き、要望すると、「前向きに検討したい」との返答。その後、学校トイレに常備されることになりました。

「本当にトイレに置いてある?」と女子中学生に聞くと、ニコニコ顔で「トイレの中に箱が置いてある」「全部の個室にある」とうれしそうに教えてくれました。

中学校訪問では「予算は年約2万円。これでは足りない」「トイレ掃除の際、生徒が補充する」と学校の思いや工夫も聞きました。支部も「豊田市へ再要望しよう、小学校も訪問しよう」と相談しています。

トイレ個室に

市議会全会一致で採択

長野支部　森山雅子

市教委との懇談で「今まで通り保健室で対応する」との回答に納得がいかずモヤモヤした気持ちに。その後、子どもたちの思いを聞く「生理のこと聞かせてアンケート」にとりくみ、50人が回答。9割以上が「トイレに置いてあったらいい」と思っていることがわかりました。

学習会も開き、「生理の貧困」とはタブー視されてきた「女性の性」にかかわる健康と権利の尊重を求める大きな意義を持つと学び、昨年12月議会に請願を提出。アンケート結果と「女性&運動12号」を資料として配布し、「いつ生理になっても大丈夫。困らないように置いてあるからね」という安心感を子どもたちに与えてほしいと訴えると、全員一致で採択！ 初めて見る光景でうれしかったです。

生理は人権課題

島根・松江支部　成瀬明子

「困ったという声を聞いたことがない」との市教委の回答をきっかけに、高校や大学前などで生理用品を配布し、アンケートにとりくみ、結果を届けましたが、前進せず…。次は何をしようか…?と思っていたとき、国際ソロプチミストから、女性と女児の生活向上のための活動に与えられるルビー賞を受賞。その副賞でトイレに生理用品やショーツを置いてもらうプロジェクトを開始し、現在5校が実践しています。

「生理の貧困」は最優先の人権課題です。一方、懇談の中で行政や学校側に「女性なら生理用品は持ち歩いて当然。それが女性のあるべき姿」との考えが浸透していると感じます。これでは子どもたちは「忘れました」「買えません」とは言えないのではないでしょうか。

昨日うれしいニュースが。松江市が3つの公共施設のトイレに生理用品を置くと発表しました。一歩前進です。

小さな声が大きなうねりに

東京・世田谷区立中学校養護教諭　三枝　泉

私の勤務する中学校では2021年からトイレに生理用品を置いています。

養護教諭の仕事量はとても多く、保健室を離れると「先生はどこ?」と探されるのでトイレすら行けないほどです。生理用品を常備するとなった当初は、「これは大変なことになるぞ」と頭を抱えた学校は多くありました。

常備を継続するためには補充作業がともないます。そこでSDGs教育にも絡めて、保健委員会活動に投げかけると、子どもたちから「自分たちのために区が動いたんだから、自分たちの仕事にしたらどうか」と意見が出て、曜日を決めて子どもたちがトイレに補充することになりました。みんな保健室という場所が好きなので、集まって来てゆったりと時間を過ごしながら今はとりくんでいます。

コロナ禍で社会が差別や貧困をクローズアップし、貧困が生理用品にまで至っていると発信したこと、その手立てをとったことは本当に子どもたちを励ましたと思います。私もこの問題にとりくんで、同じ視点の教員がいると分かったことも大変励ましになりました。

小さな声が大きなうねりになった。いろんな実践を交流して、子どもたちや同僚の先生たちと一緒に考えれば、何か形にできると思います。

最大の問題は予算です。世田谷区はいち早く予算を付けましたが、全体はそうではありません。地域間格差をなくしていく必要があると思っています。

班から37校に聞き取り

埼玉・川口支部　鎌倉啓子

市教委が昨年4月に市内の小中学校に「1カ所以上のトイレに生理用品を」と通達を出していることがわかり、学校がどうなっているか調べることに。支部ニュースでもよびかけ、アンケート用紙をしんぶんに折り込み、メールやラインで回答をお願いし、37校の状況を調べました。

養護の先生に任せっぱなしの学校が多くありました。要望書は若い世代の事務局長が作成し、実際に学校から聞きとったメンバーから意見が活発に出され、「生理用品を置く意義を性教育と一体に学校全体でとりくむこと」と入れました。

運動の前進は活動の原動力。子ども医療費や公園にトイレ設置など、運動を通じて現状を変えてきた経験が今の私の力になっています。次世代と声をあげ行動していきます。

県で700万予算化実現

鹿児島県本部　大野登希子

男女共同参画課や教育委員会と懇談し、支部や班と宣伝や自治体への申し入れ、ジェンダーカフェなど次つぎとアクションを広げ、地元メディアでもたびたび新婦人が取り上げられ、今年度ついに県が700万円を超す予算をつけました。

学校トイレへの常備が一気に進み、訪問した学校でも洗面台にメッセージ付きで生理用品が並べられ（写真右）、毎月子どもたちの手に渡っていると想像すると、とてもうれしいです。

ところが、次年度予算について担当課に聞くと「次は要求していない」との驚きの返事が。前進は続くものと思っていたことを大反省。各支部や班と情報共有し、それぞれの自治体に予算をつけるように、との要望を3月議会に出そうと急ピッチで準備しています。

この春は統一地方選挙。みんなの願いを集めて声にして届ける私たち。そして議会でその声を当局につきつけてくれる議員の存在は私たちの運動には欠かせません。

選挙を大いに話題にし、要求実現のチャンスにしていきます。

新婦人のホームページに埼玉・川口支部の要請文と長野支部の請願をアップしています。参考にしてください

月1回 女性 働く

労働組合運動におけるジェンダー平等 ④

生協労連中央執行委員長　柳　恵美子

8時間働いたら自立できる賃金を

昨年からの急激な物価高により、どこの家庭も家計は火の車状況ではないでしょうか。そのような中、労働組合では2023年春闘がスタートしました。今年はとにかく大幅賃上げなくしては終われない春闘です。しかし、その春闘要求を掲げる過程での問題があるのです。

生協にはパートやアルバイトといった時間給で働く人たちが多数います。その働き方は幅広く、例えば週3日3時間契約で年収103万円未満の人から週5日7時間契約といったように様々です。2022年10月に最低賃金が30～33円上がったことで、これまで最低賃金近傍（きんぼう）だった人の時給も上がりました。それはうれしいことではあるのですが、そのことにより、夫に扶養されている（第3号被保険者）一部の人たちは11月、12月の出勤時間や日数を減らす必要がありました。それは年収が103万円を超えると所得税がかかってくる、夫の給与の配偶者手当がもらえなくなる、また月収8万8千円を超えると社会保険に加入する必要があるなどの理由からです。そのような状況から、春闘の話し合いの中では、もっと賃金を上げてほしい人、そんなに上げられると103万円を超えてしまうので上がらなくていいなど、それぞれの立場からの意見が出てくるのです。

生協労連発行学習資材『どうする？ こうする？ 税と社会保険』

生協労連では、今の税と社会保険制度の矛盾が、非正規労働者の団結を阻害しています。さらには、一人ひとりの自立、人権の保障、女性の権利を抑制する要因となっていると考えています。当然生活環境や家族構成など一人ひとり違い、働き方も違います。しかし、労働者として大切にしなければならないことは、男性も女性も働きに応じてきちんと賃金を得ることです。そして、その賃金水準は、8時間働いたら一人ひとりが自立して暮らせるものでなくてはなりません。そのためにも、現状の枠組みだけでなく、未来を見据えた賃金と社会保障制度を実現したいと思っています。

ホットライン

編集部メールアドレス　s-press@shinfujin.gr.jp

岐阜 ジェンダー平等って？

【神戸（ごうど）支部そよ風班　川井敬子】1月25日、「ジェンダー平等って何?」の勉強会を開き、大雪にもかかわらず17人が参加しました。講師は「人間と性」教育文化センター理事の三尾美紀さん。ジェンダー平等を性と人権から考えるという内容で、「男性」「女性」という表面的なことではなく、人間として多様性を理解することの大切さを学びました。

オープニングは歌声小組のハンドベル演奏、「青い空は」を全員で合唱。会場には、手作りバッグや作務衣・絵手紙を展示しました。

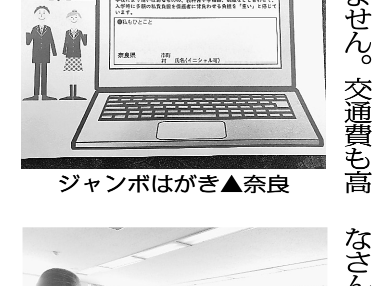
滋賀 60年記念班会 初参加も

【大津支部アルプス班　林永代】1月16日、「新婦人60年記念&新年班総会」を開き、DVD「10・22全国のつどい」で会長のミニ講演等を視聴。初めて班会に参加した人も「先輩の女性たちの運動があっていまの私たちの生活があるのですね」「昔からくらしと政治には関心があったけど、新婦人があることは知らなかった。もっと早く入っていれば」など、楽しく素敵な時間に。また、昨年しんぶんの「母の歴史」に連載された中井春子さんも参加され、百歳をみんなでお祝いしました。

百歳おめでとう！▲滋賀

奈良 ジャンボはがき大作戦

【奈良支部とびひの班　上田楓】就学援助の記事を読んで、次世代でしんぶんタイムをしました。奈良県では、「説明の用紙が何回かきた」「HPから申請できる」など、申し入れをしたことで進んでいます。しかし、高校入学時に必ず購入する「タブレット端末」はおよそ10万円！公費の補助はありません。交通費も高く、市立高校の統廃合が進んだことで、他県の学校に行けるぐらい高額な定期代に…。県によって補助が出ないのはおかしい、声を上げたら変わると、今春の奈良県知事選を見据え、ジャンボはがき大作戦を行うことに。



ジャンボはがき▲奈良

愛知 班総会&新年会盛大に

【豊川支部きさらぎ班　宮下英津子】1月29日、班総会・新年会に36人が参加。「もしもしかめよ」のストレッチ、8つの小組紹介、「川の流れのように」のうたごえ、会計報告、口腔ケア体操の指導も。おいしいお弁当に、コーヒータイム。みんなで片づけ…と、盛りだくさん。昨秋、チラシを中学校区全域に配布した効果が大きく、新しくスマホ小組を立ち上げたことも宣伝でき、これまでに5人が入会。そのうちスマホ小組は3人。8小組の活動を熱心に支える担当者のみなさんに感謝です。

みんなでストレッチ▲愛知

通信ありがとう

〈1月〉

〈県別〉

北海道40、青森7、岩手4、秋田4、山形4、宮城8、福島16、東京83、群馬22、栃木4、茨城17、埼玉14、千葉22、神奈川32、山梨2、静岡8、愛知30、岐阜16、三重10、新潟15、富山3、石川9、長野28、滋賀6、京都32、奈良35、和歌山6、大阪55、兵庫20、岡山11、広島7、鳥取9、島根6、山口3、香川4、徳島2、高知2、愛媛2、福岡14、長崎4、熊本3、大分13、宮崎2、鹿児島4

〈内容〉

県活動10、支部活動37、班活動17、俳句126、短歌119、川柳32、絵手紙67、ギャラリー1、投稿229　合計638